

雑 報

カウモリの習性に就いて

當安州には百祥樓、舊東門の古建物あり、尙周圍は城壁に取圍まれたり。其舊建物の屋根或は城壁の石間等にカウモリ多く棲息せり、5月下旬頃より毎日日没後飛翔を始め漸次盛んに高空を飛行し居たり。余は標本製作の爲め本年6月26日捕蟲網を以てヤマコウモリ (*Nyctalus aviator* THOMAS) を1匹捕獲して木製空箱に入れ飼養せり、6月28日に至り夫を検せしに箱内に居らざるを以て附近標本室の隅を搜索せるに薄暗き隅に於て二兒を分娩し未だ産兒は乾かず臍緒も切れずに居るを見たり。余はカウモリの分娩を初めて目撃するを以て詳細觀察して親子共に寸法を取り寫眞を寫して液浸にし置きたり、カウモリの仔は母胎内に於て後肢の爪が發達して(寸法参照)生れると同時に後肢の爪を以て母體の下面の皮膚に引かけ、口を乳斗に引つけ、之を引離さんとするも容易に離れざる程に強く引つき(寫眞参照)居れり。其の後幼兒の發育狀況を見る爲め之を木箱に入れ置き蠅、イナゴ等を與へしも食せず牛乳を與へたるに少し嘗めしも遂に衰弱して乳汁を分泌せざる故か一匹は母體より離れ居るを見たり。其の後6月30日同種のカウモリの雌を5匹捕獲せるを以て剥製する際腹部を切開せしに皆2兒を有し、その中1匹のみ1兒を有せるを見たり。測定表下の通りなり。

分娩年月日	體 重 g	頭 胴 mm	尾 mm	前膊骨 mm	耳 mm	爪(平均) mm	備 考
28. VI. 1932	2.8	36	15	18	5	2.5	仔
" " "	3.0	36.5	15.5	18	5	2.5	仔
" " "		71	49	50	12	3.5	親



以上の觀察に依り *Nyctalus aviator* は當安州に於ては6月下旬より7月上旬に於ては普通一腹二兒を分娩して(日本動物圖鑑には「*Nyctalus aviator* は一腹一仔を分娩すとの記録あり」)仔を母體につけたまま飛翔する事は確實にして母體につけて飛翔する期間は約3週間位と思はる。蓋し7月下旬には小形のカウモリ多數飛翔するを見ればなり、今後毎年觀察を繼續して更に確報せんとす。(元洪九)

エビ、カニの煮ると赤くなる理由

エビ、カニを煮ると赤變する理由に就いて質問を受けた。近時の文獻を採す暇がないから1903年出版の OTTO VON FURTH 著 Vergleichende chemische Physiologie der niederen Tiere pp. 533—537 “甲殻類の色素”の章を抄録してお答へすることにする。

エビ、カニの煮て赤變することを始めて研究したのは 1820 年 J. L. LASSEIGNE である。十脚類の色は二種の色素からなる。一は分解し難い赤色の Crustaceorubin といふ Lipochrom で卵、血液中にある Tetronerythrin と同じものである。

もう一の色は殻中に結晶として存し甚だ分解し易い Cyanokriptallin といふ青色の色素である。これが熱、酸、アルカリに遇ふと分解して Crustaceorubin になる故にこれを殻より變化せずに摘出することは困難である。血液中にある Haemocyanin と異つて銅を含まない。

エビ、カニを煮て赤くなるのは Cyanokriptallin が分解して赤くなり本來の Crustaceorubin と共に動物を赤くするのである。

ザリガニが脱皮後青色なのはまだ Crustaceorubin の生成しないからである。

以上述べた二種の色素以外に Hepatochrom といふ黄色の色素が殻に少量存する、これは Lipochrom ではない、肝臓を黄くする色素で卵中に特に多い。(谷津直秀)

Protospongia か *Proterospongia* か

教科書によつて此動物が二様の屬名を持つてゐる。その理由は 最初の記載の本文には *Protospongia* とあり圖版の説明には *Proterospongia* となつてゐるからである。それ故 圖版の説明だけ見た人は後者を正しいものと心得てゐる。然し *Protospongia* を採用するのが正當だと思ふ。W. SAVILLE KENT: A Manual of the Infusoria Vol. 1 p. 363; Pl. 10, Fig. 20—30 (1880—81). (谷津直秀)

學 會 記 事

入 會 昭和七年五月以降 (ABC 順)

- | | | | |
|-----------|--------------------|-----------|---------------------|
| (乙) 星野安 杏 | 東京市淀橋區戸塚町 2 の 75 | (乙) 作本臺五郎 | 臺北帝大理農學部動物學教室 |
| (乙) 井上 昇 | 臺灣臺中州、臺中師範學校 | (乙) 生物學教室 | 東京慈惠會醫科大學豫科 |
| (乙) 小林 妙 | 大阪市東成區片江町 433 | (乙) 柴田喜久雄 | 臺北帝大理農學部昆蟲學教室 |
| (乙) 古賀一夫 | 九州帝國大學農學部 | (乙) 白上 臣一 | 東京市澁谷區千駄ヶ谷町 480 |
| (乙) 松本邦夫 | 臺灣臺北州七星郡士林庄士林 77 | (乙) 田中 亮 | 臺北帝大理農學部生物學科 |
| (乙) 水戸野武夫 | 臺灣臺北市川端町 243 | (乙) 徳田 御稔 | 京都帝大理學部動物學教室 |
| (乙) 成田光雄 | 青森縣北津輕郡板柳村、害蟲研究所 | (乙) 上村三男 | 東京市小石川區茗荷谷町 85、有斐學舎 |
| (乙) 齋藤外司三 | 富山縣東礪波郡東野尻村苗加 6800 | (乙) 和田 爲康 | 札幌市外平岸村 45 |
| | | (乙) 八幡道生 | 廣島市水主町 138 |
| | | (乙) 八巻 功 | 岩手縣千厩町、昆慶様方 |

神田重夫、倉重四郎、宮下義信 の三名乙種より甲種に変更す。

退會。二見武雄 飯柴永吉 片山寛之 宮井嘉一郎 安永三吾

會員 小林彦四郎氏 磯村純一氏 黒澤健男氏逝去せらる。

謹んで哀悼の意を表す。

日本動物學會